

平成20年12月8日

J S P S ロンドン

新しい研究評価(REF)の導入に向けた進捗状況と今後の予定について

2008年11月24日、HEFCEは、新研究評価(REF: Research Excellence Framework)の導入に向けた進捗状況及び今後の予定について、大学等への通知文書(「4. 参考資料」参照)で公表した。

この度の発表の最も注目される点は、REFの仕様決定が若干先延ばしされ、2010年初頭になることである。2008年12月4日付けTimes Higher Education誌の関連記事(「4. 参考資料」参照)によると、2008年7月から実施されている計量書誌学的評価パイロット事業を通じて収集しているデータが十分揃っていないことが大きな要因と思われる。ただし、2013年にREFを全面的に運用し、2014年のHEFCE研究資金配分から全面的に反映するという当初予定に変更はない。

REFに関するHEFCEの最近の主な発表としては、2008年5月に発表されたREFの導入計画、2008年7月に発表された計量書誌学的評価パイロット事業の開始などがあるが、本発表では、それらをふまえた進捗状況として、ハイレベルのワークショップの開催を通じた主な課題の特定、2008年7月に開始された計量書誌学的評価パイロット事業の進捗状況、REFの参考となる進められた研究評価RAE(Research Assessment Exercise)2008、REFの仕様策定に助言するための専門家アドバイザリー・グループの設置、RAEからREFへの移行に伴う大学等への影響についての検討などが述べられている。

1. これまでの進捗状況

○REFに関するハイレベルのワークショップを開催し主な課題を特定した。

- ①全ての分野(All types of research、Different types of research)を適切に評価する方法
- ②(RAE2008における取り組みを基礎とした)REFでの広範な手続きについての大学等の協力
- ③産業界等との連携の研究資金配分への反映方法
- ④幅広い産業界等からの意見の研究評価への反映方法

○2008年7月に開始された計量書誌学的評価パイロット事業は、参加機関を通じたデータ収集の作業はほぼ完了し、Evidence社によりデータの解析・モデル作成が行われ、2009年半ばに結果が公表される予定。(「4. 参考資料」参照)

○RAE2008の実施作業は、REFの参考となるよう進めてきた。

○REFの仕様策定のために、専門家アドバイザリー・グループ(Expert Advisory Group)を設置した。全ての分野をカバーするため、メンバーは100名以上で、その多くはRAEのパネル・メンバーと議長で

あるが、その他にも研究会議(Research Councils)、研究者、その他利害関係者で構成される。2009年前半の REF の仕様に関する提案(Proposal)の作成過程において、新たに導入する計量書誌学的指標と従来のピア・レビューの組み合わせの方法などについて、HEFCE に対して助言する。

ORAE から REF への移行に伴う大学等への影響(Potential impact)に関する検討を行っている。

①RAE2008 の作業における大学等の作業負担を調査し、REF における大学等の負担軽減のための方策を検討している。

②RAE2008 における平等・多様性(Equality and diversity)のための方策を評価するとともに、大学等で選定されたスタッフの定量分析を行い、REF における平等・多様性のための方策を検討している。

※オックスフォード・ブルックス大学多様性政策研究センター(Centre for Diversity Policy Research and Practice at Oxford Brookes University)に委託

③REF において新たに計量書誌学的指標を大きく取り入れることにより、論文に関する研究者の行動にどの程度影響があるか調査している。

2. 今後の予定

○2008年5月の導入計画の発表では、2010年に適切な分野で計量書誌学的評価を実施し、2013年にREFを全面的に運用し、2014年のHEFCE研究資金配分から全面的に反映することとされていたが、これらの点に変更はない。

○REFの仕様に関する提案(Proposal)の作成、REFの仕様に関する関係機関への協議(Consultation)、REFの仕様決定については、若干先延ばしされた。それぞれ、2009年春が2009年前半、2009年夏が秋、2009年晩夏が2010年初頭に変更された。

○REFの全面的な運用までの詳細なタイム・テーブルは、2009年秋のREFの仕様に関する関係機関への協議(Consultation)時に、あわせて公表される予定。

REFの導入に向けたタイム・テーブル

時期	実施内容
(2008年12月)	・RAE2008の結果を公表
～2009年前半	・全ての分野で、REFの仕様に関する提案(Proposal)を作成 ※専門家アドバイザー・グループの助言及び計量書誌学的評価パイロット事業の結果をふまえて作成 ・計量書誌学的評価パイロット事業を実施 ※2008年7月から実施しており、2009年半ばに結果公表
2009年秋	・REFの仕様に関する関係機関への協議(Consultation) ※全面的な運用までの詳細なタイム・テーブルもあわせて提示
2010年初頭	・REFの仕様を決定

2010年	・適切な分野で、計量書誌学的評価を実施
(2011年～2012年)	・適切な分野で、HEFCE 研究資金配分に計量書誌学的評価を適用
(2012年)	・簡易ピア・レビュー(2013年実施)のためのデータを提出
2013年	・全ての分野で、全面的な評価を実施(簡易ピア・レビューも)
2014年	・全ての分野で、REF 結果に基づいて HEFCE 研究資金を配分

(出典) Update on the Research Excellence Framework (2008年11月24日 HEFCE 通知文書)

http://www.hefce.ac.uk/pubs/circlelets/2008/cl34_08/

Research Excellence Framework: outcomes of consultation and next steps (2008年5月27日 HEFCE 通知文書)

http://www.hefce.ac.uk/pubs/circlelets/2008/cl13_08/

※「時期」の括弧書きの項目は、この度の発表では言及されていないが、2008年5月の導入計画発表時に言及されたもの。

3. 新しい研究評価(REF)の概要

- 新しい研究評価(REF)では、指標データ(計量書誌学的指標、その他の定量的指標)と専門家によるレビューを組み合わせ、大学等の学部の研究の質を評価する。
- 従来、HEFCEsの研究資金配分に適用される研究評価(RAE)は、高等教育機関から提出された資料に基づいてピア・レビューを主として実施されてきたが、ピア・レビューの膨大な負担が課題となっていたこと、及び使用していた計量的指標(研究収入やポスト数等)が研究の質と直結しづらかったことから、計量書誌学的指標(論文被引用数等)をできる限り用いることによりピア・レビューの負担軽減を図るべく、REFへ移行するための検討が行われている。
- 特に、新たに導入される計量書誌学的指標については、研究分野の特性に応じた適切な評価を全ての研究分野において担保することが大きな課題となっており、従来のピア・レビューとの組み合わせの方法について活発な議論が行われている。

○REFの主な特徴:

全ての分野(All disciplines)における研究の質を適正に評価し得る堅固な指標の作成
研究の質に基づいて研究資金を配分するための基準の提供
全ての分野(All types)を対象とした研究資金配分
大学等が望ましくない行動をとるようなインセンティブの回避
大学等の不要な事務的負担の回避
平等と多様性(Equality and diversity)の促進

(出典) Update on the Research Excellence Framework (2008年11月24日 HEFCE 通知文書)

http://www.hefce.ac.uk/pubs/circlelets/2008/cl34_08/

4. 参考資料

○Update on the Research Excellence Framework (2008年11月24日 HEFCE 通知文書)

http://www.hefce.ac.uk/pubs/circlets/2008/cl34_08/

(付属文書) Annex A: Update on the REF Bibliometrics Pilot Exercise

http://www.hefce.ac.uk/pubs/circlets/2008/cl34_08/cl34_08a.pdf

○RAE results may not reflect true quality of UK research, warns chair (2008年12月4日 Times Higher Education p.7)

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=404590>

※後半の「REF DELAYED OWING TO INCOMPLETE INSTITUTIONAL DATA」に関連記事

○Research Excellence Framework: outcomes of consultation and next steps (2008年5月27日 HEFCE 通知文書)

http://www.hefce.ac.uk/pubs/circlets/2008/cl13_08/

○Research Excellence Framework (HEFCE)

<http://www.hefce.ac.uk/research/ref/>

○Research Assessment Exercise (RAE)

<http://www.hefce.ac.uk/research/ref/reform/rae.asp>

○計量書誌学的評価パイロット事業

<http://www.hefce.ac.uk/research/ref/pilot/>

○Evidence 社

<http://www.evidence.co.uk/>

(了)